

特集 1

急がば回れ！夏のコンクールの前に・・・

レッスン環境を 整えて、 成績アップ！

レッスン室はピアノ指導者にとって職場である。「ピアノのレッスン」を想像する時、先生のパーソナリティや指導の仕方に加えて、その空間の印象もイメージ形成に少なからず関わっている。教室の雰囲気は、先生が目指すものを反映している、といっても過言ではない。したがってレッスン環境を充実させ、

生徒に快適にレッスンを受けてもらうのは、先生の使命ともいえる。コンペを目前に控え、レッスンに一層熱がこもる初夏。エンジンをかける前に車の点検をするように、今一度レッスン環境を見つめなおすきっかけになれば幸いである。



集中力・想像力を高めるレッスン室

環境が人間の心理に及ぼす影響は大きい。例えば殺風景な部屋にピアノが2台のレッスン室と、気分を明るくさせるような色使い、照明、想像力を掻き立てるような絵画、グッズのあるレッスン室。どちらが音楽に集中でき、また表現意欲が高まる環境といえるだろうか。



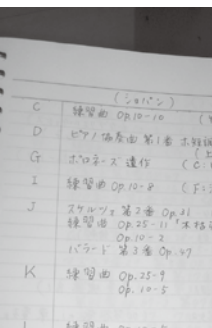
可愛らしいピンクのシャンデリア（三好先生）



楽々検索できる楽譜棚。（金子先生）



ビデオ・CDはラベリングしてリストに記録（佐々木先生・下も）



バルトークを弾く時は、ミレーの絵を見ながら

コンクール指導実績で定評のある、三好のびこ先生（静岡県藤枝市在住）のレッスン室は閑静な住宅街にある。元は和室だった12畳の部屋を、レッスン室として使える洋間に改装。ドアは居住スペースの正面玄関とは別に設置し、生徒が自由に出入りできるようにしてある。入ると、まず約2畳の待合スペースと小さな本棚がある。待っている生徒を飽きさせないよう、児童対象の読みやすい歴史や絵画の本等が置いてある。ここに常時母親が座って、子供のレッスンの様子を見ている。

入って右手のレッスン室には、ピアノが2台。そして同時に目に入ってくるのが、額縁に飾られたいくつもの絵画だ。大小、時代は様々。モネ、ラファエロなど、ヨーロッパの中世・近代画が中心である。そして生徒用ピアノの真正面には、「ノクターン」と名づけられたひときわ大きな絵が飾られている。100号キャンパスに描かれた本物のアクリル画だ。曲を弾きながら自然と目に入ってくる位置に掲げられている。知り合いの画家が楽器と音楽をイメージして特別に描いたものを、一目見て気に入り購入したそう。

ではこれらの絵を飾った理由は？「例えば印象派の曲を弾く時はモネ、現代曲を弾くときはデュフィやミレー、宗教のことを話す時はラファエロやレンブラン

ト等を見せて、その時代を想像させるようにしています」。絵画を意識的にレッスン室に取り入れることで、その曲に対する関心と理解を深めるというわけだ。

かつて50人の生徒を引き連れてオペラ鑑賞バスツアーを実施したり、海外演奏旅行に生徒と参加したこともある三好先生、様々なアプローチで生徒の想像力を刺激し続ける。

機能的なレッスン室には、知識が溢れている！

視覚的効果もさることながら、機能性も重要である。佐々木邦雄・恵子両先生宅（千葉県船橋市）はよりよい教育環境を実現するため、昨年改築したばかり。玄関を入ると右が恵子先生のレッスン室、左が電子オルガン8台とオーディオが置かれたソルフェージュ室、ここでは邦雄先生が指導にあたっている。

このピアノ教室で特筆すべきは、廊下のCD・ビデオ棚とその貸し出しシステム。「量が多くて全部整理しきれてません」というが、検索しやすいように作曲家別にCDを並べて、その背に番号ラベルを貼り、貸し出しノートに記録。どの作曲家の音源があるか、誰が弾いているか、一目でわかるようになっている。さながら「ミニ図書館」のようである。

本や音源の貸し出しをされている先生は多いと思うが、ラベリングをすることで検索、貸し出し状況の把握、所蔵点数の確認、不足音源の買足しなど、さらに



上) 三好ひび先生のレッスン室には中世から近代の絵が所狭しと飾られている。一瞬タイムスリップした気分? 壁は淡いピンクの花柄で、気分が和むよう演出している。



下) 佐々木恵子先生のレッスン室(左)と廊下のCD棚(右)。本棚と整頓へのこだわりが感じられる。奥は生徒の自習スペース、右には第2レッスン室があり、プレーヤー付きピアノとアップライトが置かれている。



有効利用が可能になる。

生徒と一緒に DVD 鑑賞も

金子勝子先生(東京都港区)も、DVD、CD、レコードの貸し出しを頻繁に行っている。自分や他人の演奏を客観的に聴く、見る、ということは常々意識されているようだ。「ショパン国際コンクールのDVDを、生徒と一緒に鑑賞したこともありますよ。また指や手の形、姿勢などを生徒本人がしっかり確認できるように、レッスン撮影用のビデオも備えてます」。またレッスンノートを生徒に書かせて、毎回先生もチェックで

きるようにしている。こうしてお互いに注意点を確認し、目標をすり合わせることで、生徒の意識も高まり、より個性・才能を正しい方向に導いていくことができる。レッスン室にはマッサージソファ、イオン空気清浄機まで置いてある配慮ぶりだった。

金子勝子先生のレッスン室の本棚。生徒に自由にCDやレコードを借し出している。DVDのコレクションも。



深夜の練習に 耐えうる防音を!

コンクール目のこの時期、レッスンや練習が深夜に及ぶことも稀ではない。「目一杯練習したいけど、隣近所が気になる・・・。フォルテッシモは控えた方がいいかな?」そんな悩みを解消する。

夜、フォルテッシモを出したい!

音に対する意識が高まっている昨今、自分の出す音に敏感にならざるを得ない時代になった。

今年3月下旬、「みどりの森音楽教室」主宰で指導者会員の久保先生(千葉県八千代市)は、完全防音工事に踏み切った。もとは和室6畳だった部屋を、床の間と押し入れをつぶして8畳強の空間を確保、洋間のレッスン室が完成した。書院の出窓の凹みを利用して一面作りつけ本棚に、畳はフローリングに、入り口はふすまから二重ドアに変身。また隣のリビングルームとの境目には、二重のガラスサッシをつけてもらった。この防音効果はかなりのもので、隣か

らはほとんど聞こえないそうだ。この工事、工期は2週間、費用は330万円※。部屋が広くても費用はさほど変わらない。

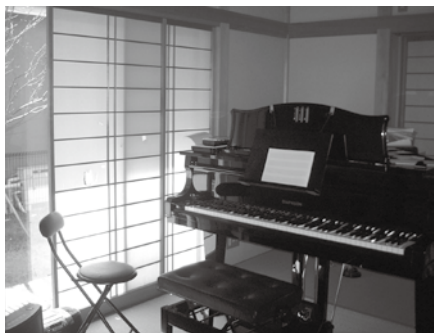
この工事を請け負ったのは、株式会社アコースティック・エンジニアリング。同社では必ず中間と完成音響検査を行う。通常は45～50デシベルの遮音性が水準とされるが、今回の久保先生邸では窓前で51デシベル、壁が57デシベルの遮音が確認された。「夜、子供にピアノを弾かせて外から聞いてみましたが、窓から覗かないとピアノを弾いているのがわからないくらい、全く聞こえませんでした。私もガンガン弾くことが出来ます。」と、先生も感激。

響きを良くする適切な空間比率

防音した上で、良い響きを実現するのは、もう一つの命題である。波長の違う音を室内で綺麗に響かせるためには、注意と工夫が必要だ。同社代表取締役の鈴木泰之氏によると、「家の中には吸音材となりうるものがたくさんあります。カーペットやカーテンはその一例です。音はこれらに吸収されて多少やわらかくなりますが、高音域のみを吸い取るので、音のバランスが崩れてしまい、ペダルを余計に踏んでしまったり、タッチが強くなってしまうこともあるようです」。

また「経験上、14～16帖で天井高が2.7m(通常は2.4m)位からが、部屋と楽器の響きの関係が良好に保てるようです。容量の大きさもさることながら、部屋の寸法比も重要です。8畳のような正方形の部屋は音楽室としてはタブー。これだと低音の共鳴による癖のため、こ

※通常工事費は約230万円。特別に既存建物の本体改造工事が約40万円、防音ドアを二重にしたり、二重間仕切りサッシにしたり、作りつけ本棚、エアコン等約60万円を含んでいる。





手前はリビングルーム。二重サッシを開めると、音はほとんど聞こえない。

と響きが良くなる。そこで同社では、久保先生レッスン室を「1（高さ）：1.4：1.5」という適切な比率にしたそうだ。

和室は特に吸音性が高く、良い響きを確保するには、難しい条件だった。フローリング効果とあいまって、レッスン環境は格段に良くなったことだろう。

「3時間で防音室」も可能な時代

大掛かりな工事ではなく、簡単に設置できるものが良い、という要望も依然多い。10年ほど前から防音室を製造しているヤマハ株式会社

では、組立てが簡単ですぐ設置できるモデルを販売している。「集合住宅住まい、あるいは転勤の多いご家族など、なかなか防音環境を整えるのが大変ですよ。ヤマハでは数年前アビテックスミニというモデルを発表しました。簡単組立て、お手頃価格、防音性能アップと3条件兼ね備えてます。従来3日間かかっていた組立て工事がほんの3時間、価格帯も80～90万円台、また壁を薄くしつつ防音性能を高めます。」組立て・解体費用はタイプによってそれぞれ約4～7万円かかるが、他の家財道具と一緒に運送できるので、引越し料金超過がないとのこと。最近は生の音を訴求する声が強く、こうしたユニット式防音室は人気だそうだ。

同社ではフリータイプも提案。よりよいレッスン環境・音楽生活を創出するために、レッス

アコースティック広告

微妙な音の違いが出る補助ペダル

2年ほど前からコンクールやステップ会場等で見かけるようになった、新型補助ペダル。微妙な身長の変化に対応し、さらに従来型の「重い、ずれやすい」などの問題点を解消した、この補助ペダルの秘密に迫る。

125 ～ 140 センチの生徒にぴったりの補助ペダルは？

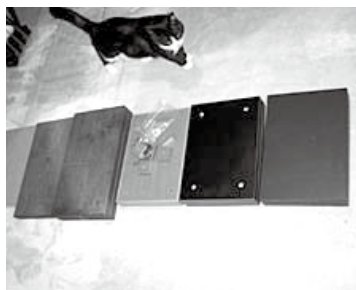
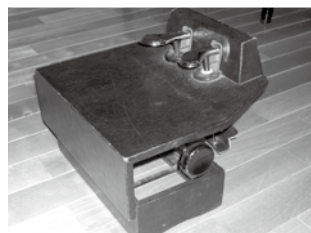
140 センチ。これは補助ペダル無しで無理なく座れる身長ラインとされる。発育過程には個人差があるが、小学校中学年くらいまでは、補助ペダルを必要とするケースが多い。従来の補助ペダルはその差を埋めるべく、13 センチ以上の高低調節ができた。しかし、約 13 センチの高さのものをいきなりはずしたら、どうなるだろうか。

人間の成長は毎日数ミリ。13 センチとは伸び盛りの子が 1 年強、中には 3 年以上かかっ

て伸びる数字である。であれば、台をはずす前後 1 年間ほどは、この不自然な状態に耐えなくてはならない。

この状況に 10 年以上悩みつづけた根津栄子先生（千葉県・市川市）は、「フィットペダル」と「フィットボード」を開発した。フィットペダルは子供の身長に応じて、3.5 センチ、5 センチと切り替えできるようになっている。フィットボードは 1 枚 3.5 センチ。2 枚重ねることも可能だ。このペダルとボードを組み合わせることで、数パターンの高低を作り出すことができる。

実はお嬢様でピティナっ子の根津理恵子さん（東京藝術大学卒）が小学校時代、従来型の



左上）ペダルの 3 分の 2 くらいまで差し込んでしっかり留め金をとめる。

左・右）試作品の数々。ボードは重ね合わせる時に外れないよう、凹凸のビスをつけた。「アイディアを出しながら試作品を作る過程は、本当に楽しかった」と振り返る。

上）従来タイプの足台付き補助ペダル。重いため持ち運びは大変。

足台付き補助ペダルを使っていたそうだ。しかし補助ペダルを使うと膝がピアノについてしまい、使わないと体が伸びきってしまっただけで、踏めない、という身長(約140センチ)に差し掛かった時、母親である根津先生の悩みは頂点に。「ちょうどその時、地元オーケストラとのコンチェルト共演が決まっていた、補助ペダルを使用するか否かを決めなければならなかったのです。結局当時は足台付きの補助ペダルしかなかったの、やむを得ずそれを使いしました。演奏は無事に終わりましたが、その後も遣り切れない思いがずっと頭の片隅にありましたね。結局『補助ペダル無しでピアノが弾けるように、1日も早く成長してほしい!』と願いつけるしかありませんでした。」その後、やはり同世代の生徒を教えながら、悶々と悩む日々が続いたそうである。

より繊細な、足へのフィット感を求めて

しかし、ある時ホームページで、「アシストペダル」という商品を見つけた。コンクールの会場でも時々類比的なものを見かけており、「これだ!」と確信したそうだ。これにヒントを得て、さらに改良したものを作りたいと早速知り合いの建築家に相談したところ、「ぜひ協力しましょう」と即決。

いくつもサンプルを作ってもらい、その度に慎重にテストしながら、ついに今年2月理想のフィットペダルとボードが完成。演奏会やコンクールで取り扱いやすく、持ち運びやすいようにと、利便性、携帯性を考慮。現場の指導者ならではの気遣いだ。実際に3月下旬に発表会を

行った際、母親全員にこの取り付け、調節がスムーズにできるようにと、事前に各家庭で練習するように伝えた。その甲斐あって、本番は大成功。早速このペダルとボードの威力を再確認したそうだ。

長沢あけみ先生(東京都・八王子市)の生徒の父親は、今からおよそ20年前にほぼ同じコンセプトでペダルを開発したそうだ。第1号から改良に改良を重ね、現在長沢先生ほか各地の先生に使用されている。既に昨年、特許も取得したそうだ。

今後ますますこの新型タイプの補助ペダルが増えそうだ。

色と心理・まめ知識

- 赤 = 情熱の色、人の目をひき、身体のエネルギー代謝をうながし、勇気と力を与え気分を明るく若々しくさせる。ピンクは健康な色気を感じさせ、暗い赤は崇高なイメージ。
 - 黄 = 陽気や喜びの色。解放感を感じさせる。
 - 緑 = やすらぎの色。黄色と青からなり、その正確は二面性をもつ。外へ向かう力と内へ向く力がお互いに張り合っている。自然や肥沃を感じさせる。
 - 青 = 空や海の色。興奮を鎮める色。時間の経過を忘れさせ、空想力を高める。
 - 紫 = 高貴な色。大変個性的な色。赤と青からなり、両面価値的性格をもつ。したがって、赤的性格と青的性格を内含有する。とらえどころがないのが魅力。
 - 茶 = 大地、秋、自制、悲しみ、労働、父親を連想させる。
- 「調和配色ブック」(監修:千々岩英彰)より

パソコン利用で 一歩リード!

指導方針をホームページに載せる ということ

これまでピアノは、近所の先生に習うケースが多かった。その最大の理由は、先生に関する情報と選択肢が少ない、ということであった。しかし今や自分でホームページを立ち上げて個人情報発信する時代。アピール度の高いページを作れば、近隣以外の生徒を募ることも可能である。

前掲の金子勝子先生（東京都・港区）は、3年前にホームページを立ち上げ、現在フル活用している。「立ち上げてから、しっかり生かすことが大切ですね」と語る金子先生は、ノート型パソコンを常備、掲示板への書き込みやメールなど、毎日必ずチェックしているそうだ。

「使用前と比べると状況はがらっと変わりました。自分の指導法をホームページで公表しているので、まず方針をきちんと理解してもらえます。また生徒募集にも大きな効果がありました。以前は口コミが多かったのですが、今は習いたいと思ったら掲示板やメールを通じて、直接コンタクトを取ってきます。毎日ホームペー

現在ビティナ会員のパソコン（メール）所有率は約45%である。パソコンが普及したことによって、レッスンスケジュール管理、メールでの連絡、Webでの生徒募集など、その成果が目に見えて上がっている。

ジに約150～180人の訪問者が来ています」。これは個人のホームページとしては、驚異的な数だ。現在、入門希望者が毎週1～2人以上のペースで来るという。希望に応じられなかった生徒のために、昨年11月より3ヶ月に一度、体験レッスン日を設けているそうだ。ホームページの威力はすさまじい。

「私はこう思う!」という主張を、 より多くの人々へ

ホームページでは、不特定多数に向けて問題提起をすることも可能だ。渡辺圭子先生（千葉県・松戸市）は1998年秋にホームページを立ち上げた。それは「譜を読む」考え方を広めたいとの問題意識から出発している。「なかなか一つの考え方を定着させるのは難しい」とは言いながらも、「この『譜を読む』ことに対する問い合わせは増えました」と振り返る。掲示板を通じて意見交換をしたり、資料を求められたり、少なからず反響はあるようだ。以前であれば自分の考え方を広めるには出版や公演、あるいは一一人と会って話すなど草の根の



レッスン室の一角にパソコン常備。生徒さんと知恵を出し合って、ホームページを運営している。（金子先生）

活動が必要だった。しかし今はまずホームページで「自分はこう思う」と発信することができ、不特定多数から意見が返ってくる時代。指導者自身が自分の考えをブラッシュアップするきっかけも、ここで作れるだろう。

その他、インターネット経由でコンサートの情報を入手、チケットを予約したり、最新ニュースを読んだり。使い方は様々である。

楽譜制作や教材開発に

上総治子先生（東京都杉並区）は、10年ほど前にパソコンを使い始めた。所属しているバスティン研究会内で詳しい先生に教えてもらいながら、今では研究会全員が教材をパソコンで作っている。利点は「少しずつ修正ができるところ。一度作り出したら面白いですよ。パソコンの使い方で分からない点をメールで仲間に関い合わせると、すぐに誰かが教えてくれます」と語る。昨年はフィナーレ（楽譜制作用のアプリケーション）のライトバージョンを購入、即興楽譜を浄書したりしている。45小節くらいの楽譜を2時間で制作したそうだ。仕上がりは綺麗で、市販の楽譜と変わらない。他にも、バスティン研究会内で教材を独自のアイディアで開発し、先生方に販売もし

ホームページ上でレッスン日記を公開。
大評判だそう（金子先生）

ている事例もある。

メールは生徒とのコミュニケーションを密に

輒みゆき先生（山口県宇部市）は電子メールフル活用派。昨年6月に始めて以来、「予想をはるかに超えたコミュニケーションに驚きました。生徒の指導法、テキストの選定、親との付き合い方、月謝の滞納や値上げ、ステップやコンペへの勧誘、発表会の企画など、あらゆる事に関してメールが行き来します」。実は会報「北から南から」の誌上問答で知り合った鈴木真理子先生（神奈川県藤沢市）とは、今では日頃のレッスンに関して「レッスンレポート」をやり取りする仲。遠距離ながら、実際に行き来もしているそうだ。こうして会員同士をつなげるツールとしても、パソコンは活躍している。今の時期、「どうすれば緊張しないで本番を迎えられるか」や「あのホールの響きはどう？」等、会話がなされているのだろうか。

日付	課題番号	今日のレッスン	ひよこさんの状況
2003/3/7	30-6	50-6 和音の分散で成り立っているこの曲は、根音を支える音楽の行方。左手から右手への受け渡しは音を転じつつ・・・音を柔軟に流す・・・。その分散音のハーモニーの行方の音色の演出が何より大切になります。 しかしその前にまず音を確実につかむことから入ることが大切になります。その方法として、この分散音を、和音にして強み取りをするのも一つの方法です。始めはゆっくりと・・・フレーズごと拍頭が定まるまで、根気良く・・・（通ずればより響きに聞こえたりは、立ちまわって何度も・・・が、この曲を仕上げるといえます）ペダルはにこならないようタイミングにはくれぐれも気を付けて・・・	ひよこさんの状況
2003/3/7	30-5	30-5 この曲は左右に10度の音程の行方。それぞれの音の向きを音楽的にキャッチしつつ、その動きをそろえることにもうん大切になります。決して音の動きを速めるのに終極的なことが必要になります。つまり音の動きをそろえ行方を追いしつつ、その流れの中でフレーズをつかみ、その音色の色分けを演出することが音楽的にこのチェルシーを生かす。最大のポイントになります。決して音が重なることなく、どれだけの単純な音形の中からフレーズをつかみ、まとめられるかにかかってまいります。	3/7 この曲は音程の行方を追いフレーズを生かす。音の降り下がるまわりの少い、やってみると、見かけはシンプルで表現するには技術的にも、先週はテンポをもう少し上げ、音のハバを付けられるように・・・きょうは最終的にはかきとめられました。ひよこさんはもう少し他の曲をやったりつづいて成長を高めたいとの事。たくさん曲を聴えているので心配ですが・・・がんばって下さいませ。



発表会やコンサートの後には必ずパソコンでアルバムを作る。（輒先生）



「即興演奏した曲も、綺麗な楽譜で残しておきたいわよね。」（上総先生）

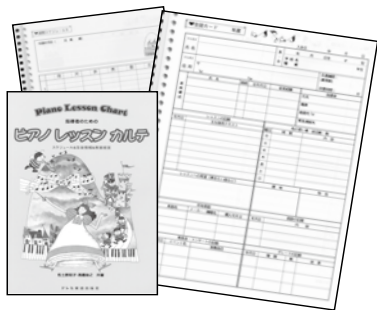
自己管理して 先を見る余裕を!

コンクールに生徒 10 人参加させた 場合をシミュレーション!

本誌連載「ポピュラー講座」でもお馴染みの佐土原知子先生（千葉県・船橋市）が、この度「ピアノ レッスン カルテ」（ドレミ楽譜出版社）を刊行した※。スケジュール管理、生徒情報、レッスン経営の 3 部構成で、指導現場のアイデアがふんだんに生かされている。

例えば「コンクールに生徒を 10 人参加させた場合」でシミュレーションしてみよう。まず生徒一人一人の課題曲を決めて「発表会選曲シート」に記入、10 人×4 曲分なので、書きとめておいた方が何かと便利。次に「3 ヶ月スケジュール」で大まかな予定を立てる。級・能力別のレッスン進行計画などできそう。課題曲公開セミナーに出席したら、「自己研修シート」に記録する。本番直前、レッスンを週 2～3 回に増やす場合はレッスン日時の重複を避けたい。そこで「レッスンスケジュール」を横に置いて、次回の日時が決まったら逐一記入していく。また忙しい最中でも、月謝支払いはきちんとチェックしておくため、「出欠&入金表」で管理。さて本番前日、緊張気味の生徒にちょっと連絡とるため、「FAX 通信シート」で一言メッセージ・・・等という使い方もできる。

ところでなぜこれが「カルテ」なのか。「生徒カード」と裏面の「レッスンの記録」がこの本の最大の特徴であるが、佐土原



※ 3 年前刊行を一部イラストリニューアル

ピアノ指導者はいわば個人経営のため、全ての管理を自分一人で行わなくてはならない。そもそも何をどの程度管理すれば、円滑な教室経営ができるのだろうか。キーワードは「自己管理」と「自己発見」。

先生によると「医者患者カルテのようなものですね」。生徒の個人情報と、レッスンの流れを記した「カルテ」を先生がファイリングしておくことで、生徒一人一人の特性、レッスンの進み具合が一目で分かる。これを全て使いこなさなくても、指導者、教室経営者として、「どの情報を知り、何を管理すればよいか」をはっきりさせるだけでも、大きな一歩。自ずと教室経営の効率化が図れ、能率と効果を同時に上げることができるだろう。

豊かな人生設計 のために

円滑な教室経営は、豊かな人生設計につながる。教室経営の理念は、ピアノ指導者としてどういう存在であり



たいか、という問いかけがその原点にあるはずだ。森山純先生（大阪府大阪市）は、「私の人生の生き方」という自己チェックシートを作り、研究会等で配ってディスカッションしている。

「年・自分の年齢」⇒「自分のやったこと・目指したこと」⇒「結果」という順番に書き出す。「過去の自己評価をすると、自分がやりたいことが明確になり、将来の計画が見えてきます」

ピアノの先生の「自己発見」は、目先だけにとらわれない、ゆとりある教室経営につながる。

<終わりに>今回テーマにした「レッスン環境の整備」とは、無駄を省き、必要なものに時間とお金をかけて、より快適で能率のあがるレッスンのための提案である。無駄がないからこそ、新しいアイデアが湧き、それを具体的な行動に移すことができる。忙しい毎日の中、少し立ち止まって考えてみてはいかがだろうか。音楽を教えるという本来の目的を、最良の形で実現するために。（取材・文◎菅野恵理子）